

銘柄産地とは？

茨城県では、品質・組織体制・産地規模などについて一定の要件を満たした青果物産地・花き産地を、それぞれ「茨城県青果物銘柄産地」・「茨城県花き銘柄産地」として指定しています。石岡市では、青果物産地として「梨」、花き産地として「小菊」が銘柄産地として指定を受けています。

今月号の特集では、お盆の時期や秋の彼岸にも欠かすことのできない花である「小菊」と小菊農家の生産者を取り上げ、生産における実情と小菊の魅力をお伝えします。

梨



指定時期

八郷地区：
平成4年度～
石岡地区：
平成26年度～

出荷組織名

JA やさと梨部会
JA 新ひたち野
石岡梨部会

指定時期

平成8年度～

出荷組織名

JA 新ひたち野
花き部会



小菊



小菊は令和5年度
に銘柄産地の再認
定を受けました！

特集

銘柄産地指定「小菊」

閭農政課

Tel 43-1111
(内線 1151)



外国人材による作業請負



外国人材を採用し、機械を導入した花の選別作業や生産者の畑での作業を請け負ってもらっています。新規の従事者がなかなか現れない現状の中、外国人材を取り入れることで、生産者の労力軽減、生産規模維持を目指し、JAとして生産者を支えています。取材にご対応いただいたこの日は、3人の外国籍の方が作業を行っていました。



JA新ひたち野花き部会 会長 大橋良行さん

もともとは、たばこを生産していましたが、政府の減反政策によりたばこの生産に制限がかかったため、小菊の栽培を始めました。小菊の価値を高め、市場での価格を少しでも上げることを目的に、平成8年に茨城県のブランドである「銘柄産地」の申請を県に提出し、認められました。部会員や生産高は年々減少していますが、花き選別機や外国人材の採用などさまざまな工夫を行い、銘柄産地の再認定を受けることができました。小菊の魅力は、お盆の時期の安定的な需要が見込めること、市場価格が他の農作物に対して比較的高いことです。この魅力を積極的に発信し、後継者を育成することで、小菊の生産を維持・拡大させていきたいと考えています。小菊の生産に興味のある方は、ぜひご連絡いただければと思います。

☎JA新ひたち野 ひたち野営農経済センター
(担当：塚本) TEL 56-3100

小菊って…？

茨城県の小菊は、作付面積が全国第2位（101ヘクタール）、出荷量が全国第3位（2,140万本）であり（令和元年産農林水産統計）、全国トップクラスの産地となっています。出荷は7月の東京盆、8月の旧盆、9月の彼岸向けが主体であり、生産現場では需要期出荷に対応するため、赤、白、黄色を中心とした100を超える品種が栽培されています。三村地区は昭和25年、三村花き園芸組合として結成された花き栽培の歴史の長い産地です。品質の高い小菊を生産していくため、連作をさけるとともに、有機物の投入、緑肥のすき込み、土壌消毒、土壌検査を行い適正肥料の投入など、土づくりに努めています。



▲出荷される際には花が開く前のつぼみの状態で梱包されます。

JA新ひたち野花き部会

JA新ひたち野花き部会（小菊）の会員は計20人、平均年齢は69歳です。作り手は年々減少しており、会員の平均年齢も高くなってきています。農業従事者の高齢化への対応と後継者の確保を促し、少しでも生産を維持・拡大させようとJA新ひたち野花き部会では新たな取り組みを行っています。

花き選別機（花ロボ）の導入



花き選別機（花ロボ）を導入し、花の大きさごとに仕分けを行う作業に機械を用いることで、それまで生産者自身が行っていた作業の効率化を図っています。この機械は、花き部会がJAに導入を求め、実現に至りました。部会に加盟している生産者は手数料を支払うことで、出荷に係る作業をJA新ひたち野に委託することができます。